

ちょっとちがうぜ 中国で農業

第64回

照葉樹林文化はどこに……

照葉樹林文化のルーツが失われてしまつた。これまではそう思つてきただ。雲南省・昆明のことである。この地は、植物学者の中尾佐助が提唱した照葉樹林文化の本拠地といわれおり、初めて訪れた時はここが日本のルーツなのかと感慨深い思いを抱いていた。しかし、目に映つたのは乱伐によつて緑が失われ山肌をさらしている山々だったのだ。

ところが、今になつてその考えを改める出来事に出くわした。最近参加した少数民族の祭りや彼らの生活の中に、ルーツの一端を垣間見ることができたからだ。

雲南省には26の少数民族がいる。省の人口約4400万人のうち約1400万人が小数民族である。祭りは民族ごとに行なわれており、それぞれに特色がある。その中でもタイ族の水かけ祭り、イ族の火祭り、ワ族の泥塗り祭りは有名だ。

実際に参加したイ族の火祭りでは、参加者が夕方からキャンプファイアを囲み、乾いた木で作られた2mほどある松明を持つて歩き回り、走り回る。広場では水牛による闘牛も行なわれていた。夜通し続く祭りは少数民族が持つエネルギーを感じさせたが、何より大きな発見だ

土下信人 (つちした・のぶひと)

1949年愛知県生まれ。95年、沖縄で陶土下を設立。組織培養技術を活用した苗生産・販売を中心とした農業のコンサルタント業務を開始。上海で組織培養施設への指導を行ない、2003年同地で組織培養会社、上海百奥微繁植株有限公司を設立。HP『大きな国で』を開設。

<http://blog.livedoor.jp/touxia/>

幻の照葉樹林

照葉樹林文化のルーツが失われてしまつた。これまではそう思つてきた。雲南省・昆明のことである。この地は、植物学者の中尾佐助が提唱した照葉樹林文化の本拠地といわれおり、初めて訪れた時はここが日本のルーツなのかと感慨深い思いを抱いていた。しかし、目に映つたのは乱伐によつて緑が失われ山肌をさらしている山々だったのだ。

ところが、今になつてその考えを改める出来事に出くわした。最近参加した少数民族の祭りや彼らの生活の中に、ルーツの一端を垣間見ることができたからだ。

雲南省には26の少数民族がいる。省の人口約4400万人のうち約1400万人が小数民族である。祭りは民族ごとに行なわれており、それぞれに特色がある。その中でもタイ族の水かけ祭り、イ族の火祭り、ワ族の泥塗り祭りは有名だ。

実際に参加したイ族の火祭りでは、参加者が夕方からキャンプファイアを囲み、乾いた木で作られた2mほどある松明を持つて歩き回り、走り回る。広場では水牛による闘牛も行なわれていた。夜通し続く祭りは少数民族が持つエネルギーを感じさせたが、何より大きな発見だ

つたのは、この祭りが松明をかざして水田を歩く日本の虫送りの行事とよく似ていたことだ。

5月にはミャンマー国境沿いの街、源市を訪れ、ワ族の泥塗り祭りにも参加した。祭りが始まると会場にアップテンポで野生的な音楽が流れ始め、それに合わせて民族衣装を着た人たちが奇声を上げる。すると会場の所々に置かれた泥の入つた鉢から参加者たちは泥をすくい、周囲の人たちに塗り始める。中央のステージでは全身泥まみれの男子が絶叫しながら歌い踊り、その周りでも全身を泥で塗られた人たちが踊り狂う。その後、参加者たちはその姿のまま会場から街に飛び出し、通行人にも泥を塗りながら練り歩く。まさに奇祭である。

だが、最初は逃げ惑つていた私もしだいに泥を塗られることが快感に変わっていた。泥を塗られて街を歩くのも爽快だった。健康と豊作を祈る祭りが、このように盛大に行なわれていることが私にはことのほか楽しく感じられた。

稻作農耕民族の生活

祭りの翌日、街から1時間ほどのところにあるワ族の村を訪れてみた。山の中腹にかやぶきの家があり、その周りは棚田になつてゐる。村の

入り口には樹齢300年を越える立派なゴムの木があつた。鳥居門では女子たちが手をつけないで歌い、客人を迎える儀式が行なわれていた。

村はのどかだ。村長の家では70歳を超える長老たちがゆるりとタバコをふかしながら客人らにお茶をたてる。小さな庭にはウイキョウ、タバコ、サツマイモ、桑などが生え、小さな鶴、黒豚の子豚も飼われていた。刻んだタバコの葉を熱心に手で揉んでいる老婆の姿も見受けられる。

ここでは悠久の稻作農耕民族の生活が穏やかに静かに営まっていた。少数民族が持つ文化の中には、稻作文化の共同体集落がそのまま残つてゐる。照葉樹林文化は生き残つていた。



ワ族の泥塗り祭り。警備にあたる軍人も容赦なく泥を塗りたくられていた。